

一般社団法人 日本脳神経外科学会

日本脳神経外科学会の D&I 推進活動は、2013 年に男女共同参画検討委員会が設置されたことに始まる。2021 年 6 月にはダイバーシティ推進委員会と改名した。

【Mission and Goal】

2021 年に委員会の目標を更新し「学会員がワークライフバランスのとれた人生設計を実現し、より充実したキャリアアップを達成することを目指す。現状の問題点を明らかにし、会員を支援するための環境整備や意識改革に取り組む。特にジェンダーバイアスにとられない視点を尊重する」とした。また、委員会では活動の 3 本柱を立てて取り組んでいる（図 1）

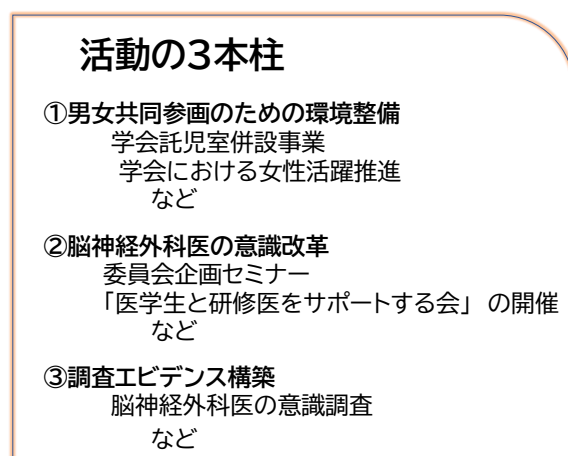


図 1：日本脳神経外科学会 ダイバーシティ推進委員会の活動方針

ここでは日本脳神経外科学会が行っている主たる 2 つの取り組みをご紹介します。

【取り組み その 1：学会における女性活躍推進する】

■女性活躍推進リストの作成の経緯

日本脳神経外科学会では、歴史的に男性医師が多い外科系診療科であり、女性比率は徐々に増えているものの 2023 年度でも 7.6%に留まっている。そこで D&I 推進を図るべく理事会で 2021 年に検討を開始した。具体的には、女性脳神経外科医の活躍の場を増やし、彼らにロールモデルとなってもらい、新たに女性の学会員を増やすことにもつなげる方策です。活躍の場としては、学術集会の座長や学会の各種委員会の委員を想定し、これらの候補者となる女性脳神経外科医を掲載したリストを作成し、座長や委員に登用しやすいシステムを構築した。このリストが“学会における活躍する女性候補者リスト（通称：女性活躍推進リスト）”である。

■リストの作成方法と留意したこと

本リストの目的は女性人材を“見える化”することであり脳神経外科の各分野から、また地域も偏りなく全国の女性医師が掲載されるように、学会認定サブスペシャリティ一領域 8 関連学会（現在は 9 学会）と支部会（全国 7 支部会）に人物推薦を募った。その上でリスト掲載者にはリストの目的と活用方法について説明し応諾を得るとともに、活動の希望や得意とする組織活動の情報も検索できるようにした。

■リストの成果

この“女性活躍推進リスト”の完成した 2022 年以降、各種委員会の委員および学術集会の座長における女性比率が飛躍的に増加した。この積極的女性登用の実現は、委員会人事を決定する理事長や座長決定に関わる大会長による D&I 推進への理解が浸透してきたことを示しており、日本脳神経外科学会を大きく変える転換点になったと思われる。今後もリストは 2 年毎に更新し、さらに活用しやすく改良していく予定である。

【取り組み その 2：エビデンス構築のための調査実施と論文作成】

日本脳神経外科学会の会員を対象として D&I 推進に関連するさまざまな意識調査を実施し、4 編の論文とした。3 編は英文で世界に発信し、1 編は和文で主に会員への意識啓発をめざした。以下に表題（和名）と要約を掲載する。近く 5 つ目の論文も発表される予定である。

論文 1. 女性脳神経外科医師の職場環境の現状に関するアンケート（2014 年）¹⁾

日本脳神経外科学会は、女性脳神経外科医と脳神経外科部長を対象とした 2 つの調査を実施した。女性脳神経外科医 224 名（43.8%）、診療科長 496 名（61.2%）から回答を得た。女性脳神経外科医が常勤の割合は 80.6%であった。週平均 51.9 時間勤務、夜間当直は月 2.8 回、休日は月 5.7 日であった。女性医師の多くは仕事状況に満足していると答えたが、約半数はワークライフバランスの維持が困難であると回答した。診療部長を対象とした調査では、ほとんどの病院で産前産後休暇の代員の確保制度がないことが明らかになった（2014 年時点）。また、夜間保育（41%）や病児保育（39%）の利用のできる施設は限られていた。女性脳神経外科医は同僚や上司からさらなる理解を得ることを望んでいた。

論文 2. 脳神経外科通常臨床勤務を離れた医師へのアンケート（2018 年）²⁾

脳神経外科男女参画委員会は 94 の脳神経外科中核病院にアンケートを送り、427 人の女性脳神経外科医のうち 71(17%)人がフルタイム勤務を離れていることを把握した。さらに個人アンケートに回答した 21 人を分析すると、脳外科医として育児とのバランスをとることの困難性(52%)、肉体的疲労(32%)がその理由として多かった。また 2/3 の女性脳神経外科医がフルタイム勤務への復帰を考えていて、そのためには出産・育児

の支援体制、男性上司の理解が鍵と考えられた。

論文 3. 日本脳神経外科学会全国 7 支部会における女性脳神経外科医の学術活動 (2023 年) ³⁾

【目的】日本脳神経外科学会支部会における女性脳神経外科医の学術活動を評価し、その問題点を明らかにすることとした。

【対象と方法】全国の 7 支部会 (北海道、東北、関東、中部、近畿、中国・四国、九州) の男女別の演題数、座長数をプログラムで調査した。対象期間は 2008 年 1 月から 2020 年 12 月までで、近畿支部のみ 2008 年 1 月から 2019 年 12 月までのデータであった。また、日本脳神経外科学会の学会誌である Neurologia Medico-chirurgica (NMC) の男女別の著者も調べた。

【結果】7 支部会で女性医師による発表の割合は、2008 年の 7.9%から 2020 年には 9.6%に増加した ($p < 0.05$)。しかしながら、女性座長比率は経時的に変化せず (1.1%)、女性発表者の割合 (7.9%) よりも有意に低かった ($p < 0.01$)。NMC では、女性医師を筆頭著者とする論文数は、13 年以上にわたって増減がなかった。

【結論】女性脳神経外科医を座長として円滑に登用し、女性筆頭著者を増やす努力が、女性脳神経外科医の学術活動を促進するために必要である

論文 4. 管理的立場にある日本脳神経外科学会所属医師に対するダイバーシティ (多様性) に関する意識調査 (2023 年) ⁴⁾

管理的立場にある日本脳神経外科学会所属医師に働き方、男性の育児休業、女性医師に対する意識調査を行った。対象は診療科長 863 人で 13 設問を調査し 420 人から回答を得た (回収率 55.2%)。82%の診療科長は仕事を優先し 55%はそのバランスに満足していた。医師の働き方改革への関心は高いが 59%が実施後に医療体制は維持できないと考えていた。44%が男性の育児休業取得は増えると推定したが、8.3%のみが育休手当の原資を正答できた。また 64%が女性医師の増加は実働率の低下になると思っていた。各施設の診療科長がダイバーシティと働き方改革の狭間で悩んでいることがうかがい知れる結果であった。

論文 5. 日本の脳神経外科に関連する 9 学会における管理的立場のジェンダーバランス調査 (2024 年) ⁵⁾

【目的】日本の脳神経外科に関連した 9 学会のジェンダーバランスを明らかにする。

【対象と方法】学会員、委員会委員、代議員について日本脳神経外科学会 (以下、JNS) は女性比率を、8 分科会は女性の有無を調査した。【結果】2023 年度の JNS の女性比率は会員 7.13%、委員会委員 7.41%、代議員 1.74%であった。8 分科会の会員女性比率は 8.59%、委員会の女性委員は 8 学会中 7 学会 (87.5%) でみられ、女性役員は 3 学会

(37.5%)でみられた。JNS を含む 19 基本領域学会のすべてに女性役員が存在した。【結論】脳神経外科をはじめ医療界では女性の管理的立場への登用が進んでおり、今後も広がる可能性がある。

【その他の取り組み】

学会のホームページ（会員専用ページ）にて会員用の情報発信を継続的に実施、相互理解のための交流の場を提供している（図 2）。また、医学生や研修医のリクルート活動も継続している（図 3）。

今後も多様な意見を反映させることが学会における D&I 推進の基本として活動していきたい。

図2 脳神経外科医 つばやきリレー

毎月1人の脳外科医に寄稿してもらい学会のホームページ(会員専用ページ)に掲載中。20個のコラムがみられ(2024年2月現在)、そのテーマは仕事・プライベートなど多岐にわたる。多様な人がいることを知り、学会場ではみられない相互理解を深めるスペースとなっています。



イラストでの寄稿



仕事のデスクの写真



愛犬の写真で寄稿



自作の料理写真でコラム



家族の写真

多彩なコラムで構成され、気づきがあります！



東京医科歯科大学 脳神経外科 前原 健寿

ルール変更

この委員会には男女共同参画検討委員会の頃から参加させていただいて、精神委員会と名前を変え、その名のとおりさまざまな活動を展開しています。

多くの先生のラムの最後を昨年のサッカーができました。



学会出張で足を延ばした景勝地の写真



自作の年賀状の写真

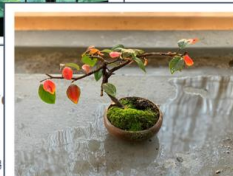
アバターでの寄稿



東京都 50歳台 男性 2022/10/

医学雑誌編集事務局の方に感謝

30年以上前に教授からあるデータを使った論文執筆のご指示を賜っています。さて、「論文ってどうやって書くの?」、「どうやってあえず和文論文をいくつか読み、なんとなく論文の体裁を頭に入れて書き始めました。どうにか



大事な盆栽



図3 医学生と研修医をサポートする会

毎年、春の全国学術集会に合わせて、リクルート活動の一環として実施中。
 全国の視聴者が参加しやすいようにリモートで開催。5名の演者が自身の体験を発表し
 指定質問者からのさまざまな質問に答えてもらう。
 医学生・研修医のための会ではあるが、脳神経外科医の視聴参加が多いのも特長。

「医学生と研修医をサポートする会」の開催風景

世界と協調する脳神経外科
 - 留学を希望するあなたに届けたいメッセージ -
 2023年5月21日(日) 15:10~16:40 WEB開催
<https://site.convention.co.jp/jcns2023/>
 第43回コンgres総合への事前参加登録後、無料視聴可能です

脳外科医のワークライフバランス
 2021年5月16日(日) 15:10~16:40 WEB開催
<http://jcns2021.umin.jp/>
 先着からのリアルな声をLiveでお届けします。
 第41回コンgres総合への事前参加登録後、無料視聴可能です。
 チャットで質問・意見を届けて、楽しんでください。

プログラム

■ これまでのテーマ

- 脳神経外科医のワークライフバランス
- 脳神経外科医の様々なキャリア
- 海外留学体験

■ 2024年のテーマ

30歳からの人生の決め方
 - サブスペシャリティの決め方とライフステージの変化への対応 -

・リモートになってから参加者が倍増
 ・ワークとプライベートを大事に、苦労話や工夫していることを話してもらいます。男性の育児経験の話も人気でした。
 ・視聴者アンケートをもとに次回のテーマを決めます。

脳神経外科医としての様々な歩み方
 - 脳神経外科の多様性と可能性 -
 2022年5月15日(日) 15:10~16:40 WEB開催
<http://jcns2022.umin.jp/>
 第42回コンgres総合への事前参加登録後、無料視聴可能です

日本脳神経外科学会
 医学生・研修医サポート委員会
 2024

30歳代からの人生の決め方
 - サブスペシャリティの決め方とライフステージの変化への対応 -

【引用文献】

- 1) T. Fujimaki et. al: Working Conditions and Lifestyle of Female Surgeons Affiliated to the Japan Neurosurgical Society: Findings of Individual and Institutional Surveys. *Neurol Med Chir* 56, 704-708, 2016
- 2) T. Maehara et al: A Questionnaire to Assess the Challenges Faced by Women Who Quit Working as Full-Time Neurosurgeons. *World Neurosurgery* 133,331-342, 2020
- 3) N. Sugo et al: Academic Activities of Female Neurosurgeons in All Branch Meetings of the Japan Neurosurgical Society . *Neurol Med Chir* 63, 457-463, 2023
- 4) 榎本由貴子ら:管理的立場にある日本脳神経外科学会所属医師に対するダイバーシティ (多様性) に関する意識調査. *脳外科誌* 32 : 519-526, 2023
- 5) 下川尚子ら:日本の脳神経外科に関連する 9 学会における管理的立場のジェンダーバランス調査. *脳神経ジャーナル* 2024 年 7 月 in press